

令和元年度

牧之原市菊川市学校組合教育委員会

自己点検・自己評価報告書



牧之原市菊川市学校組合教育委員会

目 次

1	自己点検・評価の趣旨	…	1
2	点検・評価の対象及び方法	…	2
3	点検・評価を行う事業	…	3～5
4	牧之原市菊川市学校組合教育大綱	…	6～7
5	牧之原市菊川市学校組合教育委員会自己点検・評価シート	…	8～21
6	教育委員会活動等報告	…	22～24
7	総合評価		
8	評価を受けて	…	25～27



1 自己点検・評価の趣旨

平成 19 年 6 月に、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され（平成 20 年 4 月 1 日施行）、教育委員会は、毎年、教育委員会の事務の管理及び執行の状況について、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図りながら、点検及び評価を行い、その結果を議会に提出するとともに、市民に公表することが義務付けられました。

その目的は、教育行政の執行状況を検証して、効果的な教育行政の推進に生かすことと、市民の皆様への説明責任を果たすことにあります。

教育理念「こころざしを持ち 夢あるひとづくり」の実現に向けて、令和元年度に実施した事業の内部点検及び評価を行い、さらにそれについて、教育に関する学識経験者（以下「学識経験者」という。）から御意見をいただき、その結果を報告書にまとめました。

〈参考〉地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の対象及び方法

(1) 点検・評価の対象

ア 点検及び評価

牧之原市第2次総合計画基本計画の教育文化に関する政策に設定されている7つの「方向性」に位置づけられている事業について、点検・評価を行います。

また、スポーツに関する事業についても令和元年度から点検・評価を行います。

イ 報告

教育委員会の活動

(2) 評価対象期間

令和元年度

(3) 評価方法

教育委員会が「自己点検・評価シート」により、内部評価を実施するとともに、学識経験者の知見活用として静岡大学教育学部講師 島田桂吾氏に総合的な評価をいただきました。

自己点検・評価シートの様式は、市が総合計画等の進捗状況を確認、評価する際に使用している様式をできる限りそのまま使用し、市の評価と整合が図れるようにしています。



↑ドローン授業の様子(プログラミング教育)



コミュニティ・スクールの様子↑

3 点検・評価を行う事業

総合計画とは、市が総合的かつ計画的にまちづくりを進めるために策定するもので、目指す将来の牧之原市の姿に向け、市の総力を上げて取り組む計画です。

第2次総合計画は、基本構想(理念)、基本計画(政策と施策)、実施計画(事業)の3層で構成されています。基本計画は、基本構想に示した理念に基づいて具体的な施策を展開するため、政策の体系や個別の施策の方向性を示すものです。現在の基本計画の期間は令和元年度から令和4年度までの4年間です。



点検・評価を行う事業

総合計画の基本計画には、6政策の体系と25施策の方向性が示されています。教育委員会に係る施策は2つであり、施策の分類として7つの「方向性」が設定されています。今回の自己点検・自己評価は、これら7つの「方向性」に位置づけられた12の事業について、点検及び評価を行います。

また、令和元年度からスポーツ推進室の所属が教育委員会となったため、スポーツに関する1事業についてもあわせて点検・評価を行います。

総合計画政策2 教育文化 施策1 学びの意欲を育む学校教育

(1) 確かな学力を身に付け、生きる力を育む教育

【点検・評価する事業】

①英語力向上サポート事業

自ら英語に触れたい、使いたいと思うような場の設定や英語に慣れ親しむ環境をつくったり、外国人指導助手を活用したりすることで、児童生徒が外国の文化や生活などについて積極的に学ぶとともに、グローバル化するこれからの社会に対応し、生きていくために必要な資質やコミュニケーション能力を養う。

②理科支援員配置事業

より効果的にかつ効率的に理科授業を進めるために、授業の準備や片付け及び指導の補助を行い、児童の理科への興味関心を高めるとともに、学力向上につなげる。

③ICT 活用推進事業

第2期教育振興基本計画における「ICTの積極的な活用をはじめとする指導方法・指導体制の工夫改善を通じた協働型・双方向型の授業革新を推進する」の実現に向け、ICTの強みや特性を活かした授業を推進することで、未来を担う牧之原市の子どもたちに必要な資質・能力を育むことを目的とする。

(2) きめ細かな学校生活の支援

【点検・評価する事業】

①適応指導教室推進事業

不登校、いじめ、問題行動など、心に悩みや不安を抱える児童生徒及びその保護者を対象に、来室相談、電話相談、巡回相談などにより、その解決・解消を図るため、教育相談員、巡回相談員及び臨床心理士(非常勤)を配置し、それぞれの相談に対応する。様々な理由により、不登校の状況にある児童生徒に対して、在籍校への復帰と社会的自立に向けての支援をする。

(3) 学校施設の改修と更新

【点検・評価する事業】

①学校再編事業

平成31年3月に策定された「望ましい教育環境のあり方に関する方針」に基づき、「通いたい・通わせたい」と思われる魅力的な小中一貫校をつくるため、学校再編計画を策定する。

策定のための検討については、教育委員会の諮問機関として、専門家や保護者等で構成する審議会を新たに設置する。なお、本計画は牧之原市公共施設マネジメント基本計画の個別計画となるものである。

②コミュニティ・スクール推進事業

子どもたちに「次代を切り拓く力」を育むため、キャリア教育を軸とした小中一貫教育及び社会全体で子どもを育てる仕組みとしてのコミュニティ・スクールを進める。

地域学校協働活動と一体的なコミュニティ・スクールをつくるために研究・検討及び試行し、牧之原市に合ったコミュニティ・スクールを全校に設置し、活動を推進する。

③小中一貫教育推進事業

平成31年3月に策定した「牧之原市望ましい教育環境のあり方に関する方針」に基づき、子どもたちの「次代を切り拓く力」を育むために、キャリア教育を軸とした義務教育9年間の系統立てた学びを実現する。

総合計画政策 2 教育文化 施策 2 豊かさを育む社会教育・芸術文化

(1) 社会教育活動の実施

【点検・評価する事業】

①市民学習推進事業

自ら生涯にわたり学習する社会の実現を目指し、各年代層に向けた多種多様な講座・教室を開催することで、子どもから高齢者に対して、幅広い学習の機会を提供し、生涯学習事業の推進を図る。また、文化団体の支援を行うことによって市民の文化意識の高揚と芸術活動の活性化を図る。

(2) 図書館機能の充実

【点検・評価する事業】

①図書館管理運営事業

利用者のニーズにあった図書館運営を行うとともに、図書館に足を運ぶことができない市民に読書の機会をつくることで、読書の推進と普及を図る。

(3) 芸術文化の体験

【点検・評価する事業】

①文化振興事業

市民の文化意識の高揚と芸術活動の活性化を図るため、相良総合センターい〜らホールで文化振興事業を行った市民団体に対して補助金を交付する。

(4) 地域の歴史の継承

【点検・評価する事業】

①田沼意次侯顕彰事業

田沼意次侯生誕 300 年を記念して、意次侯の再評価、市民意識の醸成、地域活性化などを目的とする顕彰事業を実施した。

総合計画政策 1 健康福祉 施策 4 健康づくりの推進

(1) 運動による健康づくり

【点検・評価する事業】

①社会体育振興事業

健康増進計画及び牧之原市スポーツ推進計画に沿って、乳幼児期に対する事業展開、成年・中年・壮年期における運動環境の整備、高齢者の運動機能の維持・向上、新規スポーツ人口の獲得等の課題解決に向け、スポーツの普及啓発事業を行い、心と身体の健康づくりを目指す。

4 牧之原市菊川市学校組合教育大綱

■基本理念（目指す教育の根本となる考え方）

こころざしを持ち 夢ある人づくり

■教育の目標

- ◎気づき、考え、行動する人を育成します
- ◎確かな学力をつけ、次代を切り拓く力を育成します
- ◎人を思いやり、人との対話を大切にする心を育成します
- ◎豊かさが実感できる教育を推進します
- ◎地域活動の充実を図ります

■教育の目標と基本方針

気づき、考え、行動する人を育成します

◆目標を達成する喜びと感動を育む教育の推進

目標を立て、努力して達成することにより、学びの喜びと感動を実感する教育を進めます。

◆健康な体と心を育成し、存在感と肯定感を持てる教育の推進

身体の健康の向上に努めるとともに心の健康も充実させ、自他を大切にする思いを育て、自分に自信を持てる教育を目指します。

◆自ら学び、考え、判断して行動する力を養う

ものごとの本質を見る目を養うとともに、自ら学び、自ら考え課題を解決する力をつけます。

確かな学力をつけ、次代を切り拓く力を育成します

◆学びたいという意欲を育む教育の推進

幼児期からの体験活動や学校における魅力ある授業づくりを進め、自ら進んで学びたいという気持ちと態度を育成します。

◆国際教育、英語(外国語)教育、理科教育の推進

国際化する社会をたくましく生きていくために、多様な考えを受け入れる力やコミュニケーション力をつける学習を進めます。また、科学への興味や関心を深め、ものづくりの基礎となる理科教育の充実を図ります。

◆情報機器(ICT)を活用し、楽しみながら積極的に学ぶ教育の推進

情報化が進む社会に対応し、情報の活用能力を高める教育を推進し、お互いを理解するためのツールとして情報機器の活用を進めます。

◆保育園・小学校・中学校の連携と学ぶ環境の整備

保育園・小学校・中学校の教育に関する連携を図るとともに、安心・安全で、時

代に対応した、子どもたちが学びやすい教育環境を整えます。

◆キャリア教育を軸とした小中一貫教育とコミュニティスクールの推進

小中一貫教育を進め、人間力の育成と個に応じた教育の充実を図ります。また、コミュニティ・スクールを導入し、社会全体で協働して子どもを育てる仕組みをつくります。

人を思いやり、人との対話を大切にすることを育成します

◆人との出会いやふれあいを大切にし、お互いを認め尊重する

人とのふれあいを通して人の温かみや人を思いやる心を育み、互いの人格を認める心を育てます。

◆自立と共生の心を育み、生命を尊重する心を育む

自分を正しく見る目を養うとともに、家族や仲間を大切にする心を養い、いじめをなくし命の大切さと生きる喜びを育みます。

豊かさが実感できる教育を推進します

◆地域の自然を愛し、大切にする郷土愛を育む

豊かな自然の恩恵を通じて、郷土のよさを感じとり、住んでいるまちや人を愛する心を育てます。

◆本との出会いを大切にする図書環境の充実

生きる力を育み、人生を豊かにする読書活動を推進します。本を好きになり、本を大切にする心を養い、図書に携わる人の育成と支援活動を推進し、身近に読書が楽しめる環境を整えます。

◆文化芸術の振興とスポーツ活動の充実

心豊かで生きがいを持って暮らすため、文化芸術の振興と充実を図ります。スポーツに親しむ環境を整え、スポーツ活動を充実させることで心と体を育成します。

◆郷土の歴史や文化財を大切にし、将来にわたって引き継ぐ

市内に数多く残る文化財、郷土の発展や人々のために尽くした鈴木梅太郎博士をはじめとする多くの偉人、これらの財産や功績を受け継ぎ、広く知らしめるとともに後世へ残していきます。

地域活動の充実を図ります

◆年代を超えた交流により、一人一人が主体となった地域づくりを目指す

子どもから高齢者まで地域に暮らす一人一人が役割を持ち、世代間の交流を図って地域活動をすることで活力ある人づくり、地域づくりを目指します。

◆生きがいを持った豊かな暮らしを目指す地域の生涯学習活動の推進

はりはら塾や田沼塾などの活動をはじめ、コミュニティー活動、ボランティア活動、グループ活動などの自主的、自立的な生涯学習活動を活発化させ、暮らしの中に生きがいと豊かさを育みます。



5 牧之原市菊川市学校組合教育委員会自己点検・自己評価シート

- ・ 英語力向上サポート事業 10
- ・ 理科支援員配置事業 11
- ・ ICT 活用推進事業 12
- ・ 適応指導教室推進事業 13
- ・ 学校再編事業 14
- ・ コミュニティ・スクール推進事業 15
- ・ 小中一貫教育推進事業 16
- ・ 市民学習推進事業 17
- ・ 図書館管理運営事業 18
- ・ 文化振興事業 19
- ・ 田沼意次侯顕彰事業 20
- ・ 社会体育振興事業 21

牧之原市教育委員会自己点検・自己評価シート

大事業名	英語力向上サポート事業	新規・既存・定期	既存	款 項 目 大 中
				10 1 3 4
担当課名	学校教育課	担当係名	指導係	

1 事業の位置付け

事業期間	2006	年度 ~	年度
2次総の位置付け	政策	教育文化	施策
			学びの意欲を育む学校教育

2 事業の内容

事務事業の内容	児童生徒がこれからの国際社会に必要な資質やコミュニケーション能力を養うため、ALT(外国人英語指導助手)を配置して外国語活動を低学年から行なうとともに、長期休暇を利用したイングリッシュキャンプを企画実施。		
国・県・民間事業者による類似事業	他市町の実施状況	吉田町、御前崎市、島田市、焼津市、菊川市、藤枝市、川根本町、掛川市	

3 投入コスト(千円)

		R1	R2	R3	R4	合計
事業費		24,574	22,880			24,574
事業費の財源内訳	国庫					0
	県支出					0
	使用料					0
	手数料					0
	分担金・負担金					0
	諸収入					0
	市債					0
	その他一般財源	24,574				24,574
年間の事業実施内容 ※「(別紙)内訳票」に詳細を記載し、併せて提出	市内小中学校に5.5名のALTを配置。幼保、小学校1~4年でも外国語活動を実施。イングリッシュキャンプの実施。小学校外国語活動指導力向上研修会の実施。英語検定の実施。					

4 業績指標の設定

手段	主な活動内容	活動指標	単位	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)
				目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
				実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	①外国人英語指導助手を配置し、中学校では英語の授業において、正しい発音や会話能力の向上を図る。小学校では、外国語活動を通して英語に慣れ親しむとともに、外国の文化等について学ぶ。 ②小中学生を対象に英語を聞き話す機会を設けるイングリッシュキャンプを実施する。 ③小学校外国語活動指導法研修会を実施する。 ④市内で英語検定を受検できる機会を設け、チャレンジを推奨する。そのために、中学2年を対象に英語能力判定テストを実施する。 ⑤観光交流課ホストタウン事業との連携については、現在申請中でH29年度は不確定要素が多いため、実施は見合わせて、H30以降の検討事項とする。	ALTが入った、外国語・英語実施授業時間数	時間	2,750	3,500	3,300	3,300	3,300
		英語検定受験者数	人	150	150	150	150	150
				130	212			
<活動指標の定義> 手段(主な活動内容)を取った(実施した)ことが確認できる指標(提供されたモノやサービスの量)								

目的	対象(だれを対象とした事業か)	成果指標	単位	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
				実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
				実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	市内全小中学校の児童生徒	(児童生徒アンケート)英語でALTとよく話をする。	%	60	60	65	70	70
	意図(対象がどのような状態になるのか)	(児童生徒アンケート)外国人と多少わからないことがあっても英語で会話できる。	%	47	42	70	70	70
	外国人英語指導助手を通し、外国の文化や生活などを学び、これからの国際社会に対応し生きていくために必要な資質やコミュニケーション能力を養う。		%	60	65	70	70	70
				60	52			
<成果指標の定義> 目的(意図)の進捗・達成度合が確認できる指標(例:市民の満足度、資格取得者の人数 など)								
<目標値設定根拠> 2/3程度の児童・生徒が英語での会話に抵抗感をもたないことが英語力向上のポイントであると捉えたため。								

基本計画(上位施策)の方向性				基本計画の指標					
政策	2	施策	2	単位	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
					実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
確かな学力を身に付け、生きる力を育む教育・学校と地域や企業が連携・協働し、地域を知る、郷土愛を醸成する、地域素材を活用するなどの特色ある教育を実践します。 ・知識及び技能、思考力、判断力、表現力、学びに向かう力などの確かな学力を身に付ける授業づくりのため、授業改善に取り組みます。 ・国際理解やコミュニケーション能力の向上、モノづくりの基礎となる理科教育の充実、ICTを活用した授業など、児童生徒が一步踏み出す追究となる学習を進めます。 ・変化が激しく、先行き不透明な時代に対応できるよう、たくましく生き抜く力を育みます。				授業がわかると思う児童・生徒の割合	%	90.0	90.0		
						86.4	96.7		
				英語が好きという児童・生徒の割合	%	90.0	90.0		
					88.7	88.7			
				子どもを合わせたいと思える学校づくりへの取組に対する市民満足度	%	61.9	61.9		
					46.9	49.6			

担当課による点検・評価	受検者数は、増加の傾向にある。令和元年度の第1回の受検者は合計80名を超えた。また、小学校6年生の受検者も年間で8名おり、意欲の高まりを表している。各中学校では、ALTが二次試験の面接対策を指導する機会も設けられていることもあり、生徒が自信を持って受験を迎えることにつながっている。 今後も受検機会を提供し、児童生徒の意欲と自信の向上につなげたいと考える。
-------------	---

牧之原市教育委員会自己点検・自己評価シート

大事業名	理科支援員配置事業	新規・既存・定期	既存	款 項 目 大 中
				10 1 3 10
担当課名	学校教育課	担当係名	指導係	

1 事業の位置付け

事業期間	2013	年度 ~	年度
2次総の位置付け	政策	教育文化	施策
			学びの意欲を育む学校教育

2 事業の内容

事務事業の内容	理科授業をより効果的に進め、児童が理科への興味関心を高め、学力向上につなげる。理科支援員を3名配置し、実験準備など理科授業の環境整備の支援。		
国・県・民間事業者による類似事業	理科観察実験支援事業	他市町の実施状況	吉田町

3 投入コスト(千円)

		R1	R2	R3	R4	合計
事業費		2,412	2,554	0	0	4,966
事業費の財源内訳	国庫	506				506
	県支出					0
	使用料					0
	手数料					0
	分担金・負担金					0
	諸収入					0
	市債					0
	その他					0
一般財源	1,906				1,906	
年間の事業実施内容 ※「(別紙)内訳票」に詳細を記載し、併せて提出	理科支援員(嘱託職員)として4名を任用し、小学校8校(相良・菅山・萩間・地頭方・川崎・細江・勝間田・坂部小学校)に配置した。					

4 業績指標の設定

手段	主な活動内容	活動指標	単位	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)
				目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
				実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	理科支援員(嘱託職員)3名を任用し、実験準備などの理科授業の準備や片付け及び実験器具等理科室の環境整備を行い、理科授業を円滑に進める。	児童数(小学校3年生から6年生まで)	人	1,524	1,440	1,483	1,493	1,491
					1,524	1,440		
		理科支援員活動時間数	時間	1,890	2,520	2,520	2,520	2,520
					1,890	2,118		
<活動指標の定義> 手段(主な活動内容)を取った(実施した)ことが確認できる指標(提供されたモノやサービスの量)								

目的	対象(だれを対象とした事業か)	成果指標	単位	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)
				目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
				実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	小学校3年生から6年生まで	児童アンケート(理科授業の関心度、満足度)	%	90	90	90	95	95
					96	98		
				(児童アンケート)理科の授業の理解度	60	70	70	70
	理科授業をより効果的、円滑に進めるため、児童への指導及び教員補助を行うことで、児童が理科への興味・関心を高め、学力向上につながる。		%	98	98			
					98	98		
<成果指標の定義> 目的(意図)の進捗・達成度合が確認できる指標(例:市民の満足度、資格取得者の人数 など)								
<目標値設定根拠> 専門性を授業に活かすことができたかを把握するには2/3以上の児童の理解度が高まったと評価されることが必要であると考えたため。								

基本計画(上位施策)の方向性				基本計画の指標					
政策	2	施策	1	単位	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
					実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
確かな学力を身に付け、生きる力を育む教育 ・学校と地域や企業が連携・協働し、地域を知る、郷土愛を醸成する、地域素材を活用するなどの特色ある教育を実践します。 ・知識及び技能、思考力、判断力、表現力、学びに向かう力などの確かな学力を身に付ける授業づくりのため、授業改善に取り組みます。 ・国際理解やコミュニケーション能力の向上、モノづくりの基礎となる理科教育の充実、ICTを活用した授業など、児童生徒が一步踏み出す追究となる学習を進めます。 ・変化が激しく、先行き不透明な時代に対応できるよう、たくましく生き抜く力を育みます。				授業がわかると思う児童・生徒の割合	90.0	90.0			
						86.4	96.7		
				子どもを通わせたいと思える学校づくりへの取組に対する市民満足度	61.9	61.9			
						46.9	49.6		

担当課による点検・評価	・勤務した学校の教員からは、感謝されているとともに、児童からの評価も高い。理科実験の準備、授業の支援等小学校では、今後もその必要性が強い。 ・要望が叶い、令和元年度からは4名体制で、すべての小学校へ支援員を配置できた。しかも、全員が理科専門で質の高い支援が行われた。 ・教員からは、実験器具等の準備や理科室(準備室)の整備活動に対する評価が高く、理科支援員の活動によって、自らの授業計画に専念できたという声が寄せられている。 ・約1/4の教員が、授業づくりのサポートを受けたことも成果であると認めており、理科支援員の専門性が生かされていると考えられる。
-------------	---

牧之原市教育委員会自己点検・自己評価シート

大事業名	ICT活用推進事業	新規・既存・定期	既存	款 項 目 大 中
				10 1 3 13
担当課名	学校教育課	担当係名	指導係	

1 事業の位置付け

事業期間	2015	年度 ~	年度
2次総の位置付け	政策	教育文化	施策
			学びの意欲を育む学校教育

2 事業の内容

事務事業の内容	児童生徒の学習内容の定着を高めるため、さらに情報機器の活用力を身につけるために、校内LAN等の環境整備と電子黒板やタブレット等を活用した授業を実施するため、指定校を設け、実践研究を推進。		
国・県・民間事業者による類似事業	他市町の実施状況	菊川市：50インチTVとPCを全教室に配置。H26年度に各教室にiPadを配布。	

3 投入コスト(千円)

		R1	R2	R3	R4	合計
事業費		52,894	2,270			52,894
事業費の財源内訳	国庫					0
	県支出					0
	使用料					0
	手数料					0
	分担金・負担金					0
	諸収入					0
	市債					0
	その他	56				56
一般財源		52,838				52,838
年間の事業実施内容 ※「(別紙)内訳票」に詳細を記載し、併せて提出	ICT研究員研修会4回実施、牧之原市ICT推進委員会の実施、小学校3年生以上の全普通教室に無線LAN環境を整備、校内ネットワーク・電源キャビネット整備工事					

4 業績指標の設定

手段	主な活動内容		2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	
	新学習指導要領が完全実施される令和2年度までに、市内全教室でプロジェクタ授業でICTを活用した実践ができるように環境整備を進める。以降平成34年度に向けて、児童生徒がタブレットを活用して、ICT機器を効果的使い、自分の考えを説明したり、互いに比較したりすることで、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。	活動指標	単位	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
				実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		児童生徒用タブレット配備数	71	222	222	222	222	
		無線LAN、光回線整備	71	109				
			1	9	-	-	-	
			1	12				
<活動指標の定義> 手段(主な活動内容)を取った(実施した)ことが確認できる指標(提供されたモノやサービスの量)								

目的	対象(だれを対象とした事業か)		目標値	目標値	目標値	目標値	目標値	
	市内小中学校の児童・生徒・教員 意図(対象がどのような状態になるのか) ICTを積極的に活用した授業実践を全校で展開する。	成果指標	単位	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
				90	60	70	80	90
		ICTを活用した授業を実践できる教員の割合R1以降は児童生徒の割合	91.3	75				

<成果指標の定義>
目的(意図)の進捗・達成度合が確認できる指標(例:市民の満足度、資格取得者の人数 など)

<目標値設定根拠>
一人一台端末の配置を想定し、児童・生徒の活用能力に目を向けるため。

基本計画(上位施策)の方向性			目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
政策	2	施策	2	実績値	実績値	実績値	実績値
確かな学力を身に付け、生きる力を育む教育 ・学校と地域や企業が連携・協働し、地域を知る、郷土愛を醸成する、地域素材を活用するなどの特色ある教育を実践します。 ・知識及び技能、思考力、判断力、表現力、学びに向かう力などの確かな学力を身に付ける授業づくりのため、授業改善に取り組みます。 ・国際理解やコミュニケーション能力の向上、モノづくりの基礎となる理科教育の充実、ICTを活用した授業など、児童生徒が一步踏み出す追求となる学習を進めます。 ・変化が激しく、先行き不透明な時代に対応できるよう、たくましく生き抜く力を育みます。		授業がわかると思う児童・生徒の割合 ICTを使って分かりやすく、発表や表現ができる児童・生徒の割合	90.0	90.0			
			86.4	96.7			
			85.0	85.0			
			80.8	67.4			

担当課による点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一台端末を想定したICT機器の授業での活用方法の研究を行い、授業実践を通して共有することができた。 ・プログラミング体験教室を5小学校9学級で計画し、プログラミングの学びの第一歩を進めることができた。マキノハラボとの連携により、適切なアドバイスと機器の供給を受けることができた。 ・ネットワーク工事を完了し、教員用端末のオンライン使用が可能となった。
-------------	--

牧之原市教育委員会自己点検・自己評価シート

大事業名	適応指導教室推進事業	新規・既存・定期	既存	款 項 目 大 中
				10 1 3 2
担当課名	学校教育課	担当係名	指導係	

1 事業の位置付け

事業期間	2007	年度 ~	年度
2次総の位置付け	政策	教育文化	施策
			学びの意欲を育む学校教育

2 事業の内容

事務事業の内容	教育相談及び不登校児童生徒の学習や学校復帰、社会的自立を支援するため、適応指導教室「フルール」を設置し、児童生徒や保護者を対象に相談やカウンセリングによる支援を実施。		
国・県・民間事業者による類似事業	静岡県総合教育センター不登校児童学習支援「ステップバイステップ」	他市町の実施状況	多くの市町で実施

3 投入コスト(千円)

		R1	R2	R3	R4	合計
事業費		5,845	539	0	0	5,845
事業費の財源内訳	国庫					0
	県支出					0
	使用料					0
	手数料					0
	分担金・負担金					0
	諸収入					0
	市債					0
その他					0	
一般財源	5,845				5,845	
年間の事業実施内容 ※「(別紙)内訳票」に詳細を記載し、併せて提出	相談件数2,086件。来室児童生徒は、小学生8名、中学生19名で、延べ497日の来室。また、小・中学校の巡回指導は261件。					

4 業績指標の設定

手段	主な活動内容	活動指標	単位	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)
	適応指導教室「フルール」を設置し、教育相談員3名、巡回相談員2名、臨床心理士(非常勤)1名を配置し、適応指導及び相談事業を実施。開設は、週5日で電話相談、来庁相談を主として、学校や保護者宅への巡回相談も実施。学校へ行けない児童・生徒を受け入れ、学習支援、人間関係づくり支援、相談活動を通して、学校復帰や社会的自立の支援を実施。	相談件数(来室、電話、移動)	件	目標値 3,000 実績値 2,970	目標値 3,000 実績値 2,086	目標値 3,000 実績値 	目標値 3,000 実績値 	目標値 3,000 実績値
<活動指標の定義> 手段(主な活動内容)を取った(実施した)ことが確認できる指標(提供されたモノやサービスの量)								
目的	対象(だれを対象とした事業か)	成果指標	単位	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	不登校、いじめ、問題行動など、心に悩みや不安を抱える児童・生徒、その保護者 意図(対象がどのような状態になるのか) 教育相談及び不登校児童生徒の学習や学校復帰、社会的自立を支援するため	来室児童・生徒の状況が改善した割合	%	目標値 90 実績値 90	目標値 90 実績値 90	目標値 90 実績値 	目標値 90 実績値 	目標値 90 実績値
<成果指標の定義> 目的(意図)の進捗・達成度合が確認できる指標(例:市民の満足度、資格取得者の人数 など)								
<目標値設定根拠> 来室により状況が改善することが学校への復帰や自立につながると考えられるため。								
基本計画(上位施策)の方向性		基本計画の指標	単位	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
政策	2	施策	1	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
きめ細かな学校生活の支援 ・牧之原市で生まれ育った全ての児童生徒が充実した教育を受けられるように、特別支援教育を更に充実します。 ・いじめ、不登校、問題行動などの防止、早期発見、解決を図るための相談体制を充実します。		子どもをさせたいと思える学校づくりへの取組に対する市民満足度	%	目標値 61.9 実績値 46.9	目標値 61.9 実績値 49.6	目標値 実績値 	目標値 実績値 	目標値 実績値
担当課による点検・評価		令和元年度末の牧之原市小中学校の不登校者(年間30日以上欠席者)は、小学校で30人(昨年度は18人)中学校で40人(昨年度は41人)となり、小学校の不登校者数の割合は1.3%、中学校の不登校者数の割合は3.9%となった。特に、小学校の不登校者数が一気に増加し、大きな課題となっている。低学年の児童の不登校者数が増えている。保護者支援が不登校改善に必要な取組であり、対応する医療機関が少ないこの地域において、教育相談員による相談ができるフルールの必要性はさらに高まってきている。 現在、通室している児童生徒については、学習に積み上げができるよう、学校と連絡を定期的に行っている。また、学校教育課と生徒指導報告の情報を共有しながら、フルールに関連した児童生徒の状況を把握している。通級経験のある児童生徒への関わりを必要に応じて継続することも考えている。今後は、必要に応じて、フルールからも適応指導教室の利用を呼びかけたり、連絡を行っていく。						

牧之原市教育委員会自己点検・自己評価シート

大事業名	学校再編事業(旧 学校再編計画策定事業)	新規・既存・定期	既存	款 項 目 大 中
				10 1 2 4 1
担当課名	教育総務課	担当係名	総務係	

1 事業の内容

事業期間	2019	年度 ~	2022	年度
2次総の位置付け	政策	教育文化	施策	学びの意欲を育む学校教育

2 事業の内容

事務事業の内容	小中連携教育を進め、魅力ある教育環境を実現するため、小中学校再編計画を策定する。		
国・県・民間事業者による類似事業	他市町の実施状況	島田市他	

3 投入コスト(千円)

		R1	R2	R3	R4	合計
事業費		713	1,809			2,522
事業費の財源内訳	国庫					0
	県支出					0
	使用料					0
	手数料					0
	分担金・負担金					0
	諸収入					0
	市債					0
	その他					0
一般財源	713				713	
年間の事業実施内容 ※「(別紙)内訳票」に詳細を記載し、併せて提出	学校再編計画策定委員会は3回実施。庁内検討委員会(学校再編ワーキンググループ)は11回実施。視察研修を実施。					

4 業績指標の設定

手段	主な活動内容							
	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい教育環境のあり方の答申を受け、牧之原市学校再編計画策定委員会を中心に、小中連携教育を進め、学校再編等について調査・研究及び協議をする。 ・策定された学校再編計画に基づき、新しい学校の構想をつくる。 	活動指標	単位	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)
				目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
				実績値	実績値	実績値	実績値	
		牧之原市学校再編計画策定委員会等の開催(委員会・意見交換等)	回		5	7		
		会議等の開催(意見交換等)	回				5	7
		<活動指標の定義> 手段(主な活動内容)を取った(実施した)ことが確認できる指標(提供されたモノやサービスの量)						
目的	対象(だれを対象とした事業か)							
	市民	成果指標	単位	目標値	目標値	目標値	目標値	
				実績値	実績値	実績値	実績値	
	意図(対象がどのような状態になるのか)							
	<ul style="list-style-type: none"> ・牧之原市望ましい教育環境のあり方に関する方針に基づき、小中学校の再編計画を策定する。 ・新しい学校の構想をつくることで、新しい学校の姿が市民の目に見える形となる。 	学校再編計画の策定	%		40	100		
		学校整備基本構想の策定	%				40	100
		<成果指標の定義> 目的(意図)の進捗・達成度合が確認できる指標(例:市民の満足度、資格取得者の人数 など)						
		<目標値設定根拠> 2年間の進捗を割合で示している。						
	基本計画(上位施策)の方向性	基本計画の指標	単位	目標値	目標値	目標値	目標値	
				実績値	実績値	実績値	実績値	
	公共施設マネジメント基本計画の時点修正、施設分類別の個別計画の策定を行う。公共施設を賢く使うことで、サービスの質の向上に努めるとともに、個別施設の更新、統廃合、長寿命化に計画的に取り組む。	子どもを通わせたいと思える学校づくりへの取組に対する市民満足度	%	61.9	61.9			
				46.9	49.6			

担当課による点検・評価	条例を制定して設置した、「学校再編計画策定委員会」は、スケジュールどおり会議及び視察を実施することができた。令和元年度は、まずは現状把握等から始め、本格的な検討を3月からスタートしたが、令和2年度は、年度内の答申を目指し具体的な検討を進めるとともに、答申をまとめる過程においては、市民意見を丁寧に聴取し、答申に反映させるような進め方をしている。また、答申を受けた後は、速やかに学校再編計画を策定できるようにする。
-------------	--

牧之原市教育委員会自己点検・自己評価シート

大事業名	コミュニティ・スクール推進事業	新規・既存・定期	既存	款	項	目	大	中
担当課名	教育総務課	担当係名	総務係	10	1	2	4	3

1 事業の位置付け

事業期間	2019	年度	～	2022	年度
2次総の位置付け	政策	教育文化	施策	学びの意欲を育む学校教育	

2 事業の内容

事務事業の内容	子どもたちに「次代を切り拓く力」を育むため、キャリア教育を軸とした小中一貫教育及び社会全体で子どもを育てる仕組みを進める。社会全体で子どもを育てる仕組みとして、地域学校協働活動と一体的なコミュニティ・スクールをつくるために研究・検討及び試行し、牧之原市に合ったコミュニティ・スクールを全校に設置し、活動を推進する。		
国・県・民間事業者による類似事業	「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の6」により、コミュニティ・スクールの設置が努力義務化されている。	他市町の実施状況	浜松市、磐田市、袋井市、藤枝市等

3 投入コスト(千円)

		R1	R2	R3	R4	合計
事業費		1,037	3,323			4,360
事業費の財源内訳	国庫					0
	県支出	685				685
	使用料					0
	手数料					0
	分担金・負担金					0
	諸収入					0
	市債					0
その他					0	
一般財源	352				352	
年間の事業実施内容 ※「(別紙)内訳票」に詳細を記載し、併せて提出	2回の研修会、1回の先進地視察を実施。モデル校3校の設置。					

4 業績指標の設定

手段	主な活動内容 市内全小中学校にコミュニティ・スクールを設置し、地域と学校が共通の目標の元、教育活動を行う。	活動指標	単位	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)
				目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
				実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		会議の開催	回		3	3	3	3

<活動指標の定義>
手段(主な活動内容)を取った(実施した)ことが確認できる指標(提供されたモノやサービスの量)

目的	対象(だれを対象とした事業か) 市民 意図(対象がどのような状態になるのか) 学校運営に地域・保護者の参加が可能となるとともに、地域においても学校においても共通の目標を持って取り組むことができる。	成果指標	単位	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
				実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
				実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		コミュニティ・スクール設置校(試行中含む)	校		2	3	12	12

<成果指標の定義>
目的(意図)の進捗・達成度合が確認できる指標(例:市民の満足度、資格取得者の人数 など)

<目標値設定根拠>
令和4年度までに12校にコミュニティ・スクールを設置するにあたり、学校と相談し段階的に開始する可能性がある数値。

基本計画(上位施策)の方向性				基本計画の指標					
政策	2	施策	1	単位	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
					実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
確かな学力を身に付け、生きる力を育む教育 ・学校と地域や企業が連携・協働し、地域を知る、郷土愛を醸成する、地域素材を活用するなどの特色ある教育を実践します。 ・知識及び技能、思考力、判断力、表現力、学びに向かう力などの確かな学力を身に付ける授業づくりのため、授業改善に取り組みます。 ・国際理解やコミュニケーション能力の向上、モノづくりの基礎となる理科教育の充実、ICTを活用した授業など、児童生徒が一歩踏み出す追究となる学習を進めます。 ・変化が激しく、先行き不透明な時代に対応できるよう、たくましく生き抜く力を育みます。				子どもをさせたいと思える学校づくりへの取組に対する市民満足度	%	61.9	61.9		
					%	46.9	49.6		
				家庭や地域での子どもたちへの教育力向上の取組に対する市民満足度	%	59.5	59.5		
					%	44.5	47.0		

担当課による点検・評価	各校の教頭を対象とした研修会を実施したことにより、コミュニティ・スクールへの理解が深まったとともに、設置に向けての意欲が生まれた。また、モデル校においては、3校中2校にCSディレクターを置くことができ、令和2年度に学校運営協議会を設置できる状態を整えることができた。令和4年度までに全校にコミュニティ・スクールを設置するため、来年度は引き続きコミュニティ・スクールの体制構築とモデル校事業を実施し、速やかな設置を促進する。
-------------	---

牧之原市教育委員会自己点検・自己評価シート

大事業名	小中一貫教育推進事業	新規・既存・定期	既存	款 項 目 大 中
				10 1 2 4 2
担当課名	教育総務課	担当係名	総務係	

1 事業の内容

事業期間	2019	年度 ~	2022	年度
2次総の位置付け	政策	教育文化	施策	学びの意欲を育む学校教育

2 事業の内容

事務事業の内容	次代を切り拓く力を育むために、キャリア教育を軸とした義務教育9年間の系統立てた学びを実現に向けて、牧之原市の合った小中一貫教育の検討し、計画を策定する。それに基づき、分離型小中一貫校を推進するとともに、再編時期の4年前からは新たな小中一貫校に向けて調整・検討を行う。			
国・県・民間事業者による類似事業	小中一貫校、義務教育学校	他市町の実施状況	静岡市、浜松市、磐田市等	

3 投入コスト(千円)

		R1	R2	R3	R4	合計
事業費		342	382			724
事業費の 財源内訳	国庫					0
	県支出					0
	使用料					0
	手数料					0
	分担金・負担金					0
	諸収入					0
	市債					0
	その他 一般財源	342				342
年間の 事業実施内容 ※「(別紙)内訳 票」に詳細を記載 し、併せて提出	校長研修、主幹教諭・教務主任研修、生徒指導研修、ICT研修を実施。 先進地の視察を実施。					

4 業績指標の設定

手段	主な活動内容		2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)
	教職員を核とした検討組織を立ち上げ、牧之原市に合った小中一貫教育の形やカリキュラム、連携方法等について検討し、計画を策定する。 試行をしながら、分離型小中一貫校での活動を進め、最終的には再編による小中一貫校での効果的な教育活動ができるようになる。	活動指標	単位	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
会議等の開催		回		2 14	3	3	3

<活動指標の定義>
手段(主な活動内容)を取った(実施した)ことが確認できる指標(提供されたモノやサービスの量)

目的	対象(だれを対象とした事業か)		目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
	小中学生	成果指標	単位	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
意図(対象がどのような状態になるのか)	9年間を連続させることで、子どもたちがより効果的で、質の高い教育を受けることができるようになる。	小中一貫教育のキャリア教育プログラムの完成・推進	%	30 30	60	80	100
		小中一貫教育の教科プログラムの完成	%		30	70	100

<成果指標の定義>
目的(意図)の進捗・達成度合が確認できる指標(例:市民の満足度、資格取得者の人数 など)

<目標値設定根拠>
4年間の進捗を割合で示している。

基本計画(上位施策)の方向性		目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
政策 2	施策 1	基本計画の指標	単位	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
確かな学力を身に付け、生きる力を育む教育 ・学校と地域や企業が連携・協働し、地域を知る、郷土愛を醸成する、地域素材を活用するなどの特色ある教育を実践します。 ・知識及び技能、思考力、判断力、表現力、学びに向かう力などの確かな学力を身に付ける授業づくりのため、授業改善に取り組みます。 ・国際理解やコミュニケーション能力の向上、モノづくりの基礎となる理科教育の充実、ICTを活用した授業など、児童生徒が一歩踏み出す追求となる学習を進めます。 ・変化が激しく、先行き不透明な時代に対応できるよう、たくましく生き抜く力を育みます。		子どもを届けたいと思える学校づくりへの取組に対する市民満足度	%	61.9 46.9	61.9	49.6

担当課による点検・評価	本取組に関しては、教育委員会のみで検討を行うのではなく、学校現場や子どもたちをよく知る教員とともに検討し、試行、改善等を行うことにより、牧之原市に合った小中一貫教育を実現できると考えた。 令和元年度は、検討体制を構築し、教員とともに学ぶことから始め、キャリア教育及びICT教育については、9年間の学びの系統図の案を作成することができた。令和2年度までには、外国語教育を含めて学びの系統図を完成させる予定である。 また、令和4年度までを目標に「学びのスタンダード」、「育ちのスタンダード」、及び各教科についての系統図を完成させ、各学校で実践できるようにする。 さらに、令和2年度から「学びと育ちをつなぐ小中連携事業」を立ち上げ、研究指定校において、小中一貫を目指した連携を試行する。
-------------	---

牧之原市教育委員会自己点検・自己評価シート

大事業名	市民学習推進事業	新規・既存・定期	既存	款 項 目 大 中
				10 5 5 2 2
担当課名	社会教育課	担当係名	社会教育係	

1 事業の位置付け

事業期間	年度	~	年度	
2次総の位置付け	政策	教育文化		施策
				豊かさを育む社会教育・芸術文化

2 事業の内容

事務事業の内容	豊かな生涯学習社会の形成を推進するため、市民が生きがいとなる様々な学習をしたり、成果を発表したりする場を提供。			
国・県・民間事業者による類似事業		他市町の 実施状況		

3 投入コスト(千円)

		R1	R2	R3	R4	合計
事業費		6,818	7,017			13,835
事業費の 財源内訳	国庫					0
	県支出	54				54
	使用料					0
	手数料					0
	分担金・負担金					0
	諸収入					0
	市債					0
	その他	54				54
一般財源	6,710				6,710	
年間の 事業実施内容 ※「(別紙)内訳 票」に詳細を記載 し、併せて提出	遠州相良田沼塾、はりはら塾への支援、家庭教育学級の開催等					

4 業績指標の設定

手段	主な活動内容		2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	
	【市民学習委託事業】 家庭教育学級・女性フォーラム、はりはら塾や田沼塾、中央セミナー、榛原地区生涯学習セミナー、文化祭開催など市民学習活動に関する事業を市民団体に開催委託する。 【市民学習活動支援事業】 ボーイ・ガールスカウト、子どもを育む地域推進団体活動、文化協会、地域女性の会、各地区公民館活動、太鼓保存会などの市民学習活動を支援する。	活動指標	単位	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
			発表会来場者数(講師・受講生含む)はりはら塾	人	2,000 2,020	2,000 1,700	2,000	2,000
			発表会来場者数(講師・受講生含む)田沼塾	人	1,800 2,063	1,800 2,013	1,800	1,800
		<活動指標の定義> 手段(主な活動内容)を取った(実施した)ことが確認できる指標(提供されたモノやサービスの量)						
目的	対象(だれを対象とした事業か)	成果指標	単位	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	
	市民全体、市民学習活動団体、はりはら塾・田沼塾の講師及び受講生など	教養を高める機会の提供・サークル活動への参加機会の提供の満足度	ポイント	0.43 0.42	0.43 0.44	0.43	0.43	
	意図(対象がどのような状態になるのか)	<成果指標の定義> 目的(意図)の進捗・達成度が確認できる指標(例:市民の満足度、資格取得者の人数 など)						
	個性を伸ばし、生きがいとなる様々な学習をしたり、成果を発表したりすることにより、豊かな生涯学習社会の形成を図る。	<目標値設定根拠> 過去の実績を考慮し算定						
基本計画(上位施策)の方向性		基本計画の指標						
政策	2	施策	2	単位	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
社会教育活動の実施 ・市民のライフスタイルやライフステージに応じた多様な学習機会の提供、地域での活躍の場の創出などを通じて、地域教育力を高めます。 ・若者の自分磨き、地域による家庭教育力の向上の支援、学力向上と放課後の居場所づくりのための学習スペースの確保、高齢者の生きがいづくりなどの交流・学習の場の創出を支援します。		生涯学習やサークル活動への参加機会の提供に対する市民満足度		%	67.5 57.5	67.5 58.4		
				%				
担当課による 点検・評価	各種の文化振興事業、生涯学習事業を実施することで、多くの市民が文化・芸術・生涯学習に親しむ機会を得ることができ、文化意識の高揚と文化振興、生涯学習事業の普及に努めることができた。							

牧之原市教育委員会自己点検・自己評価シート

事業名	図書館管理運営事業(相良・榛原・移動図書館)	新規・既存・定期	既存	款	項	目	大	中	
		整理番号		10	5	3	4	2	
担当課名	社会教育課	担当係名	社会教育係						

1 事業の位置付け

事業期間	平成 ~ 平成							
2次総の位置付け	政策	教育文化	施策	学びを循環する社会教育				

2 事業の内容

事務事業の内容	子どもたちが本を通して愛情や情緒を育むため、読み聞かせ会の開催や読書ボランティアの育成を行う。また、図書館機能の充実と併せ、公共施設の適正化・有効利用による新たな図書館整備に向け検討を実施。							
国・県・民間事業者による類似事業		他市町の実施状況	図書館所有全市町村					

3 投入コスト(千円)

		R1	R2	R3	R4	合計
事業費		38,615	23,925	0	0	38,615
事業費の財源内訳	国庫					0
	県支出					0
	使用料					0
	手数料					0
	分担金・負担金					0
	諸収入					0
	市債					0
	その他	500				500
一般財源	38,115				38,115	
年間の事業実施内容 ※「(別紙)内訳票」に詳細を記載し、併せて提出	図書館機能の充実、読書推進活動の実施					

4 業績指標の設定

手段

主な活動内容

- 各保育園、幼稚園、小学校、福祉施設等での読み聞かせ
- おはなし会の開催
- ボランティア研修会の開催
- 利用者ニーズに合った図書の充実
- 既存図書の保護
- 3館相互の連携強化(相良図書館、榛原図書館、移動図書館)
- 学校図書室訪問の実施
- 移動図書館で各地を回り貸出業務を行う。

※H30から新しい活動指標(貸出冊数)を使用する。

活動指標	単位	H30	R1	R2	R3	R4
		目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
来館者数(利用者数)	人	40,000	40,500	26,700	68,000	73,000
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		34,450	31,042			

<活動指標の定義>
手段(主な活動内容)を取った(実施した)ことが確認できる指標(提供されたモノやサービスの量)

目的

対象(だれを対象とした事業か)

- 園児、児童、親子、放課後児童クラブ、福祉施設等
- 市民

意図(対象がどのような状態になるのか)

- 読み聞かせ会や親子読書の開催、読書ボランティアの育成及び家庭・地域・学校が連携し、本に親しむ場の整備に努める。

成果指標	単位	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
図書館の機能充実や整備に関する取組の満足度	%	—	31.0	—	—	—

<成果指標の定義>
目的(意図)の進捗・達成度合いが確認できる指標(例:市民の満足度、資格取得者の人数 など)

基本計画(上位施策)の方向性

政策	2	施策	2
図書館機能の充実			

図書館機能の充実
・図書のインターネットでの所蔵検索や県内図書館の横断検索を可能とするなど、図書館の利便性の向上を図るとともに、他の図書館との連携強化を図ります。
・既存の図書館と交流の場等との複合化を図り、図書館機能を充実します。

基本計画の指標	単位	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
図書館本貸出冊数	冊	85,000	85,000			
		69,689	65,325			
図書館の機能充実や図書館整備に関する取組に対する市民満足度	%	48.5	48.5			
		28.5	31.0			

担当課による点検・評価	「よもーね! マキノハラ」事業を通して、読書ボランティアの繋がりが持てるよう、情報交換、交流の場を設けている。さらに個々のスキルアップを図ることができるよう、図書に関する研修会等の場を引き続き提供していく必要がある。平成30年12月に設置した牧之原市図書館協議会へも意見を伺うなどして、市立図書館の拡充を図っていく。
-------------	--

牧之原市教育委員会自己点検・自己評価シート

大事業名	文化振興事業	新規・既存・定期	既存	款	項	目	大	中
担当課名	社会教育課	担当係名	文化振興係	10	5	3	1	

1 事業の位置付け

事業期間		年度	～		年度	
2次総の位置付け	政策	教育文化			施策	豊かさを育む社会教育、芸術文化

2 事業の内容

事務事業の内容	文化意識の高揚と芸術活動の活性化を図るため、文化振興活動や文化振興に係る事業を支援。					
国・県・民間事業者による類似事業		他市町の実施状況				

3 投入コスト(千円)

		R1	R2	R3	R4	合計
事業費		182	706	5,662	2,662	9,212
事業費の財源内訳	国庫					0
	県支出					0
	使用料					0
	手数料					0
	分担金・負担金					0
	諸収入			3,000		3,000
	市債					0
	その他					0
一般財源	182	706	2,662	2,662	6,212	
年間の事業実施内容 ※「(別紙)内訳票」に詳細を記載し、併せて提出	い～らのホールを利用して文化振興事業を実施した市民団体に対して補助金を交付した。	い～らのホールを利用して文化振興事業を実施した団体に対して補助金を交付。	担当業務の見直しを行い、文化振興団体に対する補助金を交付。また偉人マンガの製作を行う予定。			

4 業績指標の設定

手段	主な活動内容		2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)
	活動指標	単位	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
	市民の文化意識の高揚と芸術活動の活性化を図るため、相良総合センターい～らホールで文化振興事業を行った市民団体に対して補助金を交付する。	補助事業の利用団体数	団体	6 4	5 1	5	5
<活動指標の定義> 手段(主な活動内容)を取った(実施した)ことが確認できる指標(提供されたモノやサービスの量)							
目的	対象(だれを対象とした事業か)	文化芸術に関心のある市民	成果指標	単位	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
	意図(対象がどのような状態になるのか)	様々な文化や芸術に親しむことができるよう、鑑賞や発表の場、機会を提供する。	ホール利用率	%	75.4%	65.6%	
<成果指標の定義> 目的(意図)の進捗・達成度合が確認できる指標(例:市民の満足度、資格取得者の人数 など)							

基本計画(上位施策)の方向性		2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)
政策	2	施策	2			
芸術文化の体験 芸術文化に誰もが気軽に参加し、触れ合い、体験できる機会をつくります。		基本計画の指標	単位	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
		文化や芸術に触れる機会を提供(充実)する取組に対する市民満足度	%	53.3% 38.3%	53.3% 40.5%	

担当課による点検・評価	台風19号や新型コロナウイルスの影響により、予定していた事業が次々と中止になったため、成果を上げることはできなかった。 今後、補助制度の見直しを行い、予算等に影響のない形で継続することを検討していく必要がある。
-------------	--

牧之原市教育委員会自己点検・自己評価シート

大事業名	(田沼意次侯生誕300年記念)田沼意次侯顕彰事業	新規・既存・定期	既存	款 項 目 大 中
				2 1 9 10 3-4
担当課名	社会教育課	担当係名	文化振興係	

1 事業の位置付け

事業期間	平成30	年度 ~	令和元	年度
2次総の位置付け	政策	産業経済		施策
				中小企業の振興,観光業の振興

2 事業の内容

事務事業の内容	生誕300年を契機として、市の偉人である田沼意次侯に関する歴史や文化に触れ、その優れた政治手腕を再認識することで、市民の見識を高めるとともにその功績を顕彰。			
国・県・民間事業者による類似事業		他市町の 実施状況		

3 投入コスト(千円)

		R1	R2	R3	R4	4ヶ年合計
事業費		3,501				3,501
事業費の 財源内訳	国庫					0
	県支出					0
	使用料					0
	手数料					0
	分担金・負担金					0
	諸収入					0
	市債					0
	その他 一般財源	3,501				3,501
年間の 事業実施内容 ※「(別紙)内訳票」 に詳細を記載し、併せ て提出	ぶらり田沼の旅in東京、 記念講演会の実施。 相良城跡二の丸土塁・ 堀跡発掘調査・現場見 学会実施。					

4 業績指標の設定

手段	主な活動内容		2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)
	田沼意次侯生誕300年を記念して、意次侯の功績を顕彰する講演会を開催。相良城跡の堀跡の発掘調査を行い、記念大祭に合わせて来場者に現場見学会を開催した。	活動指標 イベント開催 (ぶらり田沼の旅、講演会等)	単位 回	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
				4 6			
<活動指標の定義> 手段(主な活動内容)を取った(実施した)ことが確認できる指標(提供されたモノやサービスの量)							
目的	対象(だれを対象とした事業か)		目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	市民	成果指標	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	意図(対象がどのような状態になるのか)	各種イベントによる集客	人	1,587 1,975			
	田沼意次侯生誕300年を契機とし「田沼のまち牧之原」を念頭に置いた上で、市民と行政が連携して「文化振興」を図る	<成果指標の定義> 目的(意図)の進捗・達成度合が確認できる指標(例:市民の満足度、資格取得者の人数 など)					
<目標値設定根拠> 会場ごとの定員や参加定員を考慮し算出した。							
基本計画(上位施策)の方向性			基本計画の指標				
政策	2	施策	2	目標値	目標値	目標値	目標値
				実績値	実績値	実績値	実績値
地域の歴史の継承 ・地域の文化財を包括的に調査、活用することにより、郷土の歴史への関心と理解を深めるとともに、史料の展示公開を通じて地域を学ぶ機会を創出します。 ・地域の歴史や偉人の功績を顕彰し、市民の郷土愛を育みます。			文化や芸術に触れる機会を提供(充実)する取組に対する市民満足度	%	53.3% 38.3%	53.3% 40.5%	
			史料館の利用者数	人	18,000 17214.0	18,000 13,879	
担当課による 点検・評価	田沼家菩提寺である勝林寺での史料館出張展示は、事前に東京新聞に掲載され広報されたため、都内(首都圏)からの誘客に繋がった。牧之原市関連のニュースが首都圏のブロック紙に掲載されることは少なく、市のPRとしても大きな成果だった。また、ぶらり田沼の旅in東京と組み合わせることで市民の関心も高まった。 相良城跡の発掘現場を会場として、小学生に発掘体験授業を行い、郷土への愛着と歴史文化への興味を持つ良いきっかけとなった。一般見学会は、記念大祭当日に実施し、市民だけでなく市外の愛好家も数多く見学に訪れた。 この成果を踏まえ、市の郷土の偉人や歴史文化の顕彰を主体に市民意識の醸成、地域活性化のコンテンツとして事業を推進していく。						

牧之原市教育委員会自己点検・自己評価シート

大事業名	社会体育振興事業	新規・既存・定期	既存	款	項	目	大	中
担当課名	スポーツ推進室	担当係名	スポーツ推進係	10	6	1	2	1

1 事業の位置付け

事業期間	2019	年度	～	2020	年度	
2次総の位置付け	政策	健康福祉			施策	健康づくりの推進,地域医療体制の構築

2 事業の内容

事務事業の内容	心と身体の健康づくりのため、スポーツ推進委員を中心にスポーツの普及を図るとともに運動の機会を提供する				
国・県・民間事業者による類似事業	スポーツ基本計画 静岡県スポーツ推進計画	他市町の実施状況	全市町		

3 投入コスト(千円)

		R1	R2	R3	R4	合計
事業費		7,755	9,556	0	0	7,755
事業費の財源内訳	国庫					0
	県支出					0
	使用料					0
	手数料					0
	分担金・負担金					0
	諸収入					0
	市債					0
	その他	5				5
一般財源	7,750				7,750	
年間の事業実施内容 ※「(別紙)内訳票」に詳細を記載し、併せて提出	スポーツ推進審議会会議3回開催、スポーツ推進委員会会議の開催及びスポーツ教室等実技指導(32回)、大会、教室等実施事業					

4 業績指標の設定

手段	主な活動内容		2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	
	スポーツ推進計画に基づき、スポーツ推進委員会やNPO法人牧之原市体育協会、まきのほら総合スポーツクラブと連携し、幼児から高齢者までのライフステージに合わせたスポーツの普及啓発を図る	活動指標	単位	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
		スポーツ大会・教室等への参加者数	人	5,000 6,183	5,000 5,512	5,000	5,000	5,000

<活動指標の定義>
手段(主な活動内容)を取った(実施した)ことが確認できる指標(提供されたモノやサービスの量)

目的	対象(だれを対象とした事業か)		目標値	目標値	目標値	目標値	目標値	
	こどもから大人までの市民	成果指標	単位	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	意図(対象がどのような状態になるのか)	一日30分以上の運動を週に2回以上する人の割合(成人)	%	32 35.3	32	37	42	47

<成果指標の定義>
目的(意図)の進捗・達成度が確認できる指標(例:市民の満足度、資格取得者の人数 など)

<目標値設定根拠>
5年間の実績による目標値

基本計画(上位施策)の方向性	政策	1	施策	4		目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
運動による健康づくり ・メタボリックシンドローム、ロコモティブシンドローム、認知小予防などに効果的な軽スポーツや体操の普及を進めます。 ・気軽にスポーツや運動を楽しめる環境を整備します。					基本計画の指標	単位	実績値	実績値	実績値	実績値
					1日30分以上の運動をする頻度	%	47.0	47.0		
					健康づくりサービスの推進への取組に対する市民満足度	%	27.0	35.3		
							65.3	65.3		
							55.3	54.9		

担当課による点検・評価	スポーツ推進委員を中心とした「干支吹き矢」普及事業は、高齢者向けの軽スポーツとして用具の貸出や地域での講習会を行うなど普及活動に努めてきた結果、地域で用具を購入するなど定着してきた。今後は、競技制と地域間交流の場として大会の開催を検討していく。また、市特有の海岸線をフィールドとするマリンスポーツには、身近に体験などできる機会として多くの参加者があり、特に子供たちには海への親しみを感じてもらいマリンスポーツへの興味も抱いてもらった。引き続き市の財産である海岸を利用したスポーツの推進に努めていく。
-------------	---

6 教育委員会活動等報告

1 教育委員会活動

(1) 教育委員会とは

教育委員会は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地
教行法」という。）の定めるところにより、学校その他教育機関の設置・管
理、その他の教育事務を執行することを職務権限とする行政委員会であり、
教育長及び4人の委員をもって組織される合議体の執行機関です。

(2) 教育委員会の構成

牧之原市教育委員会の構成は、次のとおりです。

ア 教育長

教育長は、牧之原市長の被選挙権を有する者で、人格が高潔で、教育
行政に関し識見を有するもののうちから、市長が、市議会の同意を得て
任命します。教育長は、教育委員会の会務を総理し、教育委員会を代表
します。任期は3年で常勤です。

イ 委員

委員は、牧之原市長の被選挙権を有する者で、人格が高潔で、教育・
学術及び文化に関し識見を有するもののうちから、市長が、市議会の同
意を得て任命します。任期は4年で非常勤です。

◎ 牧之原市菊川市学校組合教育委員会委員の紹介（令和2年3月現在）

役職名	氏名	任期
教育長	橋本勝	平成30年10月1日～令和3年9月30日
委員 (教育長職務代理者)	近江賢市	平成30年10月1日～令和4年9月30日
委員	鈴木達也	平成28年10月1日～令和2年9月30日
委員	道下茂子	平成29年10月1日～令和3年9月30日
委員	松浦啓二	令和元年10月1日～令和5年9月30日

(3) 教育委員会の活動

教育行政の基本的な施策の決定や諸問題の解決策の重要案件等进行处理するため、原則として、毎月1回開催する定例会と、必要に応じ緊急案件进行处理するために開催する臨時会のほか、事務局との情報交換・事務報告・その他の打合せ等を行っています。

令和元年度 教育委員会開催状況

	開催日	時間	会場	種類
1	4月16日(火)	16:00～	相良庁舎4階会議室3	定例会
2	6月28日(火)	9:30～	相良庁舎4階会議室3	定例会
3	7月18日(木)	9:30～	相良庁舎4階会議室3	臨時会
4	2月12日(水)	9:20～	牧之原小学校会議室	定例会
5	2月28日(金)	13:00～	相良庁舎4階会議室3	臨時会
6	3月23日(月)	9:30～	相良庁舎4階会議室3	定例会

令和元年度 総合教育会議出席状況

	開催日	時間	会場	出席者	議事
1	11月20日	14:00～16:20	市役所相良庁舎 4階大会議室	9名 市長、教育長、 市教育委員3名 学組教育委員4名	・牧之原市教育大綱について ・子ども・子育て支援事業計画等の概要について
2	2月25日	13:30～15:20	市役所榛原庁舎 4階会議室1～3	9名 市長、教育長、 市教育委員4名 学組教育委員3名	・牧之原市教育大綱について ・意見交換

令和元年度牧之原市菊川市学校組合教育委員会議案一覧

1	31. 4. 16	牧之原市菊川市学校組合立小中学校の主任等の任命について
2	31. 4. 16	牧之原市菊川市学校組合立小中学校の学校評議員の委嘱について
3	31. 4. 16	平成31年度榛原地区教科用図書採択連絡協議会委員の選出について
4	1. 6. 28	議会の議決を経るべき議案に関する意見の申出について
5	1. 6. 28	令和元年度特別支援教育就学奨励費補助金対象児童生徒の支弁区分の決定について
6	1. 7. 18	令和2～5年度使用の小学校用教科用図書の採択について
7	1. 7. 18	令和2年度使用の中学校用教科用図書の採択について
8	2. 2. 12	牧之原市菊川市学校組合立学校教育職員の勤務時間の上限に関する方針について
9	2. 2. 12	牧之原市菊川市学校組合教育費補正予算（案）について
10	2. 2. 12	牧之原市菊川市学校組合教育費当初予算（案）について
11	2. 2. 28	県費負担教職員人事の内申について
12	2. 2. 28	牧之原市菊川市学校組合立小学校及び中学校の防犯カメラ管理運用規程の制定について
13	2. 3. 23	令和2年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について

牧之原市教育委員会自己点検・評価は、総合計画の基本計画で示されている7つの「方向性」に位置づけられた12の事業について、点検及び評価を行うこととされている。

評者は牧之原市教育委員会より提出された「自己点検・評価シート」の項目及び内部評価結果について、総合的な評価を行った。

(1) 英語力向上サポート事業

ALTが入った外国語・英語実施授業時間数が目標を上回ったことは良い傾向であろう。ただ、「外国人と多少分からないことがあっても英語で会話できる」と回答した割合が約半数にとどまっているのは、英語力というよりもコミュニケーション力に課題がある可能性も指摘される。原因の追求と対策に期待したい。

(2) 理科支援員配置事業

児童の理解、授業の関心度及び満足度が98%と大変高い数値が示されており、「理科離れ」が問題視される昨今の状況においては大変良い環境であるといえる。また、今年度から全校配置された成果も出ているようなので、更なる充実に期待したい。

(3) ICT活用推進事業

無線LANが全校で整備されたことはとても良いと思う。今後の教育活動を進める上では不可欠であるため、更なる充実を図っていただきたい。

(4) 適応指導教室推進事業

小学校での不登校児童が増加していることは気がかりである。関係機関との連携は不可欠であるが、ICT等を活用することで別室にしながら学習を保障する自治体もあるため、複合的な支援策をご検討いただきたい。

(5) 学校再編事業

学校再編事業はこれからの牧之原市の教育環境を整備する重要なものである。地域住民等の理解を得ることともに、教職員が主体的に参画できる仕組みなどもご検討いただきたい。

- (6) コミュニティ・スクール推進事業
モデル校の実践を他校にも周知することで、コミュニティ・スクールのイメージを共有するとともに、教職員の理解促進等も進めていただきたい。
- (7) 小中一貫教育推進事業
小中一貫教育に関する教職員の理解促進等も進めていただきたい。
- (8) 市民学習推進事業
「教養を高める機会の提供・サークル活動への参加機会の提供の満足度」が目標値を達成したのは良いと思う。今後は参加者が学んだ成果を活かせる機会の提供等が増えると良いと思う。
- (9) 図書館管理運営事業
図書館来館者数は昨年度より増加しているが、図書館の従来からのイメージである「本を借りるところ」から「情報や人が集まる空間」に変容しつつあるとも言える。新しい図書館の活用に期待したい。
- (10) 文化振興事業
牧之原市に限らず文化振興事業はコロナウイルスの影響が大きいと推察される。「ウィズコロナ」における文化振興の工夫がなされることを期待したい。
- (11) 田沼意次侯顕彰事業
全体的に本事業が成功裏に終わったことは準備や公報等の成果が出たものと推察される。これらを牧之原市の財産として引き続き継承していただきたい。
- (12) 社会体育振興事業
いずれも目標値を上回ったことは良いと思う。「人生 100 年時代」における生涯スポーツの振興に引き続きご尽力いただきたい。

以上が、牧之原市教育委員会が実施している 12 事業を中心として、総合的な観点から点検した評価である。全体的に、どの事業も必要性が高く、一定程度の成果も示されており、今後も継続していくことが基本になるであろう。

ただ、今後は「ウィズコロナ時代」への対応の中で、事業の進め方等に変更を迫られることも生じることが想定される。その中で、事業の質を維持・向上させるためには様々な知恵が必要になるだろう。そのためにも各課が実施している事業の成果を共有しながら、各課を横断的に取り組む事業を検討することも必要であると考えます。

8 評価を受けて

今後の事業に対して「ウィズコロナ時代」への対応や、それを含めた課を横断する事業への取組についてご指摘をいただきました。

令和2年度は、コロナ禍における事業展開の変更、リモートでの会議等、従来の手法の見直しが行われています。新型コロナウイルス感染症の影響により社会が大きく変化していく中で、事業の質を維持・向上できるよう、事業展開を考えてまいります。

令和元年度は、学校再編事業やコミュニティ・スクール推進事業など、課を横断する事業を実施しています。今後は、教育委員会としての目標達成のために、どのような事業の連携が必要か検討し、課を横断して取り組む事業等、教育委員会全体で実施してまいります。

牧之原市菊川市学校教育委員会
教 育 長 橋 本 勝

牧之原市菊川市学校組合教育委員会
自己点検・評価報告書（令和2年10月）

発行 牧之原市菊川市学校組合教育委員会
〒421-0592 静岡県牧之原市相良275番地
電話：(0548) 53-2642／F A X：(0548) 53-2657
E-mail：kyoiku@city.makinohara.shizuoka.jp
ホームページ：http://www.city.makinohara.shizuoka.jp